

## 令和元年度 法人運営目標・指針



### 法人運営目標

1. 平成30年版高齢社会白書では、「自宅で介護を受けたい人の割合は73.5%」となっています。  
しかし、実際には様々な事情により、サ高住や老人ホームに入居される方が多い。ご高齢の方の思いに寄り添い、最期までご自宅で過ごせるように、リハビリを充実させるとともに、ADL・IADLの向上や社会参加への取組を積極的に行い、自立支援介護をさらに充実させる。同時に、自助（自らの生活を支え、自らの健康は自ら維持）・互助（インフォーマルな相互扶助。例えば、近隣の助け合いやボランティア等）の精神を地域と連携し、根付かせていく。
2. 以下の目的を実現させるために、職員が主体的に提案を出して自ら改善していく風土を創る。
  - (1) サービスの改善・差別化に取り組む。
  - (2) 「地域貢献活動」に取り組み、地域の方とつながりを強化し、支え合える地域づくりに貢献する。



### 法人運営指針

1. 各部署が自律型の組織となることを目指す。（主体的に考える社員が多数を占め、迅速に動ける仕組みがあり、対話・協働を促す文化が根付いた組織づくり）  
自部署の内部環境の強み・弱み、外部環境の機会・脅威は何かを分析（SWOT分析）し、環境に適応するために対応策を検討・実行する。
2. 組織横断的プロジェクトチームを発足し、次の課題に取り組む。  
人材不足、労働生産性向上の観点から、長期的視点に基づいて、ICT「情報通信技術」（電子カルテやソフトの導入を含む）、介護ロボット等の活用の検討を行う。
3. 公募制の社内提案制度を行う。  
現場独自の発想や、ユニークな視点等、職員の英知を使って経営力を高めていくために、業務改善等の実効性のある社内提案制度を実施する。
4. 人材育成を積極的に行う。
  - (1) 役職者や役職者を目指す方へ、体系的なマネジメント研修を行う。
  - (2) 業務成果・研究発表会や老健大会等での発表を積極的に行う。
5. 法人が中心となって行う取り組み  
ボランティア活動を、スムーズかつ継続的に行っていただける仕組みを構築する。